

緑の分権改革推進モデルの類型化に関する研究会(第1回) 議事要旨

- 1 日時 平成24年7月19日(木) 10時～11時30分
- 2 場所 中央合同庁舎第7号館共用会議室
- 3 出席者
飯盛委員、井筒委員、岡田委員、堀尾委員(座長)、見山委員
- 4 議事次第
 - (1) 緑の分権改革推進モデルの類型化に関する研究会について
 - (2) 「緑の分権改革」調査事業(条件不利地域課題解決モデル実証調査)
 - (3) 平成21～23年度のフィージビリティ調査等のとりまとめについて
- 5 議事の経過
事務局からの資料説明後に行った質疑応答の概要は、以下のとおり。

<平成21～23年度のフィージビリティ調査等のとりまとめ>

- 事務局で検討したとりまとめの案を本研究会の第二回あたりに出してもらえるのか。
⇒ そのとおり。
- このとりまとめの出口の設計はどうなっているのか。どうやってこれを使うのか。
- 地域の中で「マイナス要因をプラス要因へと転換」できるような事業を展開していくことは出来ないか。
⇒ 今は実学が重要である。
- 基本的には実学的な方向での地域の活力を高めていく体系が必要。
とりあえずは、四つの切り口(①地域における事業の重要度及び事業の継続性のリスク等に応じた類型化 ②地域資源と資源循環の組み合わせ(地域資源の再構成の類型) ③事業化デザイン(地域資源の再構成)上、考慮すべき事項 ④モデルケース毎の収支バランスの課題)を作業仮説にしてやっていただければと思う。

- 地域での事業実施のためには、結局ヒト・モノ・金が重要。市民ファン
ドを作る場合も、最後まで責任を取ってやり切る覚悟がある人がいなければ
ならない。自分がリスクを取ってやり切る覚悟ある人がいればよい。
また、雇用創出という言葉よりも産業創出という表現の方が私は好き。
同様に、地域資源という言葉よりも私は「歴史」とか「風土」という言葉
を使う。歴史には必然というのがある。産業が栄えたところには歴史的な
必然性がある。太陽光パネルも風土に合っているかどうかの検証が必要。
もう一つは産業基盤が大事。地域の産業をどう作っていくかということ。
- 出口をどうするのか。オーラルな場も必要。ディスカッション・ワーク
ショップといったこともやってみてはどうか。
- 委託団体となった自治体に我々も入ってシンポジウムといったものはあ
るのか。
⇒ 東京で一本というよりかは全国何カ所かで実施したい。
- 類型化を通してモデルケースをいくつか作って、全国の地域金融機関に
情報を還元していければと思う。地域金融機関の審査能力向上につながる
よいきっかけになるのではないかと思う。
⇒ ある程度手を加えればよくなるというものがあれば、そのような視点を
もって対応していただきたい。
- 失敗を繰り返す事例もある。どの部分をどう直せばいいのかを理解する
ことが重要である。特にバイオマスに関しては入口と出口のバランスが悪
い事業も見受けられる。

以上